



学校だより



令和7年 10月31日
11月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

今から、漢字を1000字、覚えられますか？

校長 樋川 宣登志

先週、5年生とハケ岳移動教室に行ってきました。朝の気温は4℃。急な寒さが厳しかったです。澄んだ空気の向こうには、ハケ岳や富士山の姿が絶景でした。

さて、往きのバスの中、子どもたちが用意した楽しいクイズコーナーでの一問。

「小学校で習う漢字は何文字でしょう？三択です。①約300字②約700字③約1000字」

正解は、約1000字。正確には、1026字です。ずいぶん多い数だなあと、改めて感じました。

小学校6年間では、もちろんこの他に、ひらがなにカタカナ、九九や「底辺×高さ÷2」、縄文土器に江戸幕府、「てこの原理」や「光合成」など、数えきれない事柄を学びます。今から1000字覚えて忘れるな、と言われても気が遠くなります。いったいどうやってこれだけの事柄を身に付けることができるのでしょうか。

1000字をそれぞれバラバラに覚えるのは大変です。「場」「湯」「腸」などは、どれがどれやらとなります。ですが、「つちへん」（土や地面を表す）、「さんずい」（水に関わる）、「にくづき（月）」（身体を象徴する）の意味を学ぶと、この三つの漢字を間違えることはありません。また、「あめかんむり」の意味を理解していれば、初めて見る漢字でも「天気に関係あることだろう」と推測できます。漢字の成り立ちや仕組みを学ぶことが大切なのです。

九九の「6×8」を忘れても、かけ算の仕組みを理解していれば、「6×7に6をたす」「8×6と答え

は同じ」「6を8回たす」などを見付けることができます。

「底辺×高さ÷2」を忘れても、四角形を半分にして三角形を作るストーリーを経験していれば、「垂直な2辺をかけて、2で割ればいい」ことがわかります。

「覚えることの量が増えると覚えづらくなる」のが普通です。電話番号にマイナンバー、スマホやPCのパスワード、クレジットカードの暗証番号など、わたしはとても覚えられません。

しかし、学習など、意味のある事柄は、「覚えることの量が増えた方が覚えやすくなる」場合があります。例えば三つの事柄 A・B・C をそれぞれ言葉だけで知るよりも、Aの成り立ちやBの仕組み、AとCの関係がわかることで、A・B・C をしっかりと身に付けられるのです。

学習では、ひとつひとつを単に「知る」のではなく、成り立ちや仕組み、ストーリーを「理解する」ことが大切です。

では、そのように学ぶにはどうすればいいのでしょうか。それが、学校の授業だと考えます。

授業では、言葉や公式を丸暗記するのではなく、五感を働かせ、試行錯誤し、友だちと意見を突き合わせていきます。そうすることで、平面的な知識が、立体的な理解へと醸成されます。

ドリル学習や家庭学習で技能を高めることも必要ですが、小学校の授業では時間をかけて子どもたちの確かな力を育てていきたいです。